

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に関する面談
2. 日時：令和3年6月14日（月）13時30分～14時40分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

岩永企画調査官、星主任技術研究調査官、佐藤（匡）室長補佐、佐藤（雄）  
管理官補佐、（以下、テレビ会議システムによる参加）近藤技術参与、鈴木  
技術参与、平山技術参与、吉田技術参与

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー プール燃料取り出しプログラム部

担当者 3名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー 防災・放射線センター

担当者 1名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクトマネジメント室

担当者 1名（テレビ会議システムによる出席）

#### 5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、福島第一原子力発電所2号機のシールドプラグコア抜きに向けた検討状況について、令和3年6月2日の面談を踏まえて主に以下の点に関して説明があった。

- コア抜きは、乾式工法で行うことは可能である。
- コアを途中で折る場合、遠隔操作による装置の開発等が必要となり、工程に影響が出る。
- コアは、直径が大きい方が抜きやすい。

○これに対して、原子力規制庁は、以下の点を伝達した。

- コア抜きのパターン及び工法の組合せに応じた工期への影響を整理した上で、工法等を選定する必要がある。
- シールドプラグ1層目と2層目の汚染の程度が高いことが想定されることを踏まえて、コア抜きの工法を検討する必要がある。

#### 6. 資料

なし

以上